



最近のテレビ番組で自給自足の生活をしている人たちを紹介していた。たった一人で生活している人も、また家族で生活している人たちも様々であった。また自給自足の生活をするに至った理由も様々であったが、皆さんとてもたくましく生きていらっしゃることに感動をした。厳しい自然と向き合いながらの生活ではあるが、生きるということがどうということなのかが直に実感できる生活でもあるようだ。

田舎で一人暮らしの女性は、若いころ保母として働いていた経験を持つという。しかし突然耳が聞こえにくくなり、仕事に支障をきたすようになったことから、上司からは全人格を否定するような言葉を浴びせられ、仕事を辞めざるを得なくなったと話す。「ここはありのままの私のすべてをそのまま受け入れてくれる。私の人格を否定するものは何もない」というようなことを話されていた。畑を耕し、薪を割り、ささやかな自然の恵みに感謝しながら生きておられるその姿は生き生きとしていた。そしてそこにはその姿に共感された人々が集い、助け合い、慈しみ合う世界が広がっていた。

また自給自足の生活で育てられた兄弟で「高校へは行かない」、「ここで生きる」と断言した子供には少々驚かされたが、それぞれに夢を持ち、ここで生きることをしっかりと確かめ生きているその姿に大切なことを教えられた気がした。

私たちが思って生きている幸せは、本当に幸せな姿なのだろうかと深く考えさせられたことだ。

## コロナ禍の中での 一年の始まりとなりました。



令和三年一月九日(土)十三時より  
 例年であれば、今日第二土曜日は「おでん」を囲んでの恒例の門徒懇親会であったが、さすがにこの状況では開催することもできず、本堂で「おはじまり」のお勤めをすることになった。(昨年の十二月までお知らせ)  
 参加者は残念ながら少なかったが、微笑ましく、うれしくも思えたことは、おばあちゃんに連れられた幼い女の子が来てくれたことだった。以前にはお母さんともお参りに来てくれたことがあったが、ご家族の子どもへの願いが深く感じられたことだった。

近になりましたらお願いに上がりますのでよろしくお願いたします。  
 現在のごところお手伝いは事前と、当日に分けてお願したいと思っておりますので、間  
 なりますので、その折にはよろしくお願いをいたします。  
 年行司の皆様には、当日もさることながら、事前の準備のご協力をお願いすること  
 としても残念に思っています。  
 本来ですと、十四日、十五日の両日にわたって厳粛に執行するところでありまして、

## 報徳会執行にあたって

本年は十九年に一度巡ってくる報徳会のお勤めが、四月に光受寺で勤修されることになっていきます。ただ昨年から今年にかけての新型コロナ流行により、その終息の目途が立たないことから、役員会において話し合い次のように決定をいたしました。

期日 四月十五日(木) 一日のみの執行。

午前 十九ヶ寺の寺院によるお勤め。

午後 光受寺住職と役員のみにてのお勤め。



# 光受寺 梅の鑑賞について

昨年来、新型コロナウイルスの流行であらゆる行事が見直される事態となつてしまいました。光受寺の行事も例外ではなく、春の永代経から始まり、報恩講と大きな行事が中止あるいは内容を見直すこととなりました。本年度はとりわけ報徳会という大行事が控えています。この行事さえも大きく内容を改めて行うこととなりました。

『観梅会』も梅を観ていただくだけの事ではありませんが、蜜のなりそうな感じも拭い切れないことから、神経質にならざるを得ません。例年のような大規模な催しは避け、とりわけ本堂内での催しは中止することにしています。より神経を使うのはトイレの利用ですが、「使用禁止」にもできず、できる限りの感染対策をしておく以外は仕方がないかなと考えています。

さて今年の梅はいかがなものか。

実は飛龍梅の枝の出が例年になく悪いのです。石庭の梅も上半分が枯れて切り落としてしまいました。何故だか理由は分かりませんが、まさに自然なのでしょう。有りのままをご覧ください。



盆栽を地植えした老木。十二月に咲き始め。

見どころ…2月下旬～3月中旬 聴風庵展示(絵画・ひな人形等展示あり)

## 今月の掲示板

迷惑をかけないで

生きることはできません。

大切なことは

人に迷惑をかけている

と気づく、その自覚です。

誰しも迷惑をかけないで生きて行きたいと思えます。しかし、「誰の世話にもならん」といくら強がってみても、どこかで誰かに迷惑をかけて生きているものなのです。生老病死の人生を生きる上では人に迷惑をかけずには生きられないものなのではないでしょうか。

大切なことはその事実気付き、「ありがとう」「申し訳ない」の思いを篤くし、共に「お互いさま」の世界に生かされるのが大切ことだと思われれます。

## 新コーナー

十一回連載

樹林

自然は無言で、ありのままの姿を見せてくれますが、その姿を通して気づかされてくることも多いのではないかと思われれます。

8回目

昨年十二月十五日には初雪が舞い、十七日の朝には、全面雪景色となりました。

新潟では2メートルを超える大雪となり、関越道は一日間車が立ち往生となりました。地球環境の荒廃がもたらす気象の異常に翻弄されるこの頃です。

今年は寒い冬になりましたが、それでも2月になると、フキノトウが芽吹き、ロウバイ、スイセン、タンポポが花開くようになります。室内にはアンドロビウムが、庭にはクリスマスローズが咲き、日だまりには菜の花が咲き始めます。中下旬には梅の花が、華やいた雰囲気をかもし、一気に春へと装いを進めてくれます。土の下や、落葉の下で冬を越した蛙や昆虫たちも動き出し、2月はまさに春の芽生え。希望の芽生えです。

## 自然散歩



ロウバイ



光受寺の梅



フキノトウ

学習会・金曜喫茶はコロナ感染拡大により、しばらくお休みいたします。解除後は改めてお知らせいたします。